

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・相手とのコミュニケーションを通して、自分の思いを伝えることに課題がある。
- ・表現の楽しさを味わい、コミュニケーション能力を伸ばす指導法を工夫する。

具体の取組の内容

1時間の学習の流れ (南小スタンダード)

- Greetings
- Sing
- About today
- Phonics
- Small talk
- Activity (games)
- Story telling
- Looking back
- Greetings



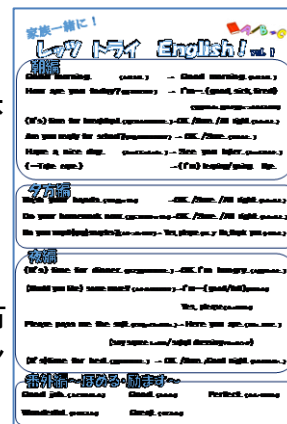
教材・教具の工夫と学習環境の充実

- クラスルームイングリッシュカードの作成
- 国際理解教室の掲示
- 階段を利用した掲示



家庭との連携

- 学年だより・HPでの情報発信
- レットトライ・イングリッシュ配布
- 英会話ワンポイントレッスン



各種研修会の実施

- 校内授業研究会
- 小中合同授業研究会
- 英語指導力研修会



成果①

- 児童の意識調査(5月、11月)
英語の学習が好きと答えた児童が8割を超えており、意欲的に取り組んでいる。英語を話すことや発表に関しては、3～5割の児童に苦手意識があったが、11月の調査では、低・中学年で改善傾向にあり、進んで表現しようという児童が増えている。英語を聞くことは、9割近くの児童が好きと答えているので、聞く活動をさらに充実させていきたい。
- 教員の意識調査(2月、12月)
昨年と比較してクラスルームイングリッシュを抵抗なく用いられるようになった。使用頻度も高くなり、T1で授業をする自信もついてきた。

成果②

- 英語に自然に親しむことができ、児童の意欲はとて高まっている。英語の時間が楽しみという声が多い。
- 英語に対する抵抗がなくなり、進んで表現しようという児童が増えている。
- 校内研修の充実により、教員の外国語指導に対する抵抗がなくなり、指導力も向上している。
- 保護者の声
 - ・中学校の英語と違い会話中心の授業で、子どもたちも楽しそうに取り組んでいる様子がとてもよかった。
 - ・小学校から英語を学ぶことで、英語検定への取組の堅苦しさがなく、楽しさの延長のまま挑戦できた。

今後の課題・方向性

- 5月と11月の調査の比較では、高学年で苦手意識をもつ児童が僅かに増えているが、今年度から週2時間になり、負担感や難しさを感じてきているのではないかと考えられる。
- 英語のシャワーをたくさん浴びせることによって英語に慣れ親しませ、楽しくコミュニケーションすることにつなげていきたい。
- 小学校と中学校の学習のつながりが不十分であるので、学習の系統性や年間指導計画の見直しを進める必要がある。
- 表現力の育成には、全教育活動を通じた取組が必要不可欠である。外国語(英語)だけでなく、他教科でも共通課題として取り組まなければならない。